

# JAPIC NEWS

## Contents

一般財団法人 日本医薬情報センター **JAPIC**  
Japan Pharmaceutical Information Center

### 巻頭言

「使命と責任」

キッセイ薬品工業株式会社 代表取締役社長 神澤 陸雄 …… 2

### インフォメーション

10月末発売!

「JAPIC医療用・一般用医薬品集インストール版2013年10月版」…………… 4

「JAPIC OTC医薬品CD-ROM 2013年10月版」…………… 4

年内発刊!

「成分から調べる 医薬品副作用報告一覧(改訂版)」(仮称)…………… 4

医薬品集 好評発売中!

JAPIC「医療用医薬品集2014」検索用DVD付を8月26日に発刊しました…………… 5

JAPIC「一般用医薬品集2014」を9月2日に発刊しました…………… 5

### トピックス

JAPICサービスの紹介

保険請求の請求時の効率化、医薬品と病名のチェックに! 医薬品と対応病名検索システム“病名ナビ”…………… 6

### コラム

おすすめの一冊「Pharmaca Fennica 2013」…………… 9

最近の話題「ジェネリック医薬品に関する最近の動き」

日本ジェネリック製薬協会理事長 伏見 環…………… 10

薬剤師の現場「現場発の小児医薬品開発 -より有効でより安全な医薬品を子どもたちへ-」

独立行政法人国立成育医療研究センター 薬剤部 小児と薬ネットワーク推進室 栗山 猛…………… 12

外国政府等の医薬品・医療機器等の安全性に関する規制措置情報より-(抜粋)…………… 14

■図書館だよりNo.280 ■情報提供一覧…………… 15

# 10

2013 | No.354

## 使命と責任

キッセイ薬品工業株式会社 代表取締役社長  
神澤 陸雄 (Kanzawa Mutuo)



今年4月、当社本社がある信州松本は例年より早い春を迎えようとしていました。平年より1週間以上も早く桜の満開の時期を迎え、国宝松本城とのお濠を取り囲むように植えられた300本のソメイヨシノや八重桜が、競うようにいっせいに薄紅色の花をつけました。今なお戦国の勇姿を誇る松本城は、漆黒の下見板張りの城壁を持つことから、別名烏城（からすじょう）とも呼ばれ、黒を基調とした松本城、その背景に残雪をたたえた北アルプス連峰、満開の桜、の3者が、毎年、美しいコントラストを創り出します。今年も穏やかな春の日差しの中、昼にはお花見を楽しみ、夜にはライトアップされた松本城とともに満開の桜を楽しむことができました。しかし、翌日は一転しての大雪。薄紅色の満開の桜の花に白雪が降り積もり、昨日とは全く異なる光景が眼前に広がっていきました。満開の桜の花を愛でた昨日と、町並みは全く変わっていないのに、一夜にして「異次元」の世界に連れて来られたような錯覚を覚えるような出来事でした。

昨年末の衆議院議員選挙において安倍政権が発足し、7月の参議院議員選挙を経て安倍政権は盤石なものとなりました。安倍政権発足以来、デフレマインドを一掃し、湿った経済を発火させる為の大胆な政策が矢継ぎ早に放たれました。その第一の矢は、日本銀行の黒田東彦総裁、自らが「量的にみても質的にみても、これまでとは全く「次元」の違う金融緩和を行う」と会見で発表し導入された、「異次元」の量的・質的金融緩和策です。バブル崩壊後の20年間で、日本は「異次元」と称される施策が必要となるほど、「次元」の異なる状況、社会になって

しまった、陥ってしまったと認識すべきなのでしょう。

日本が陥っている「この次元」から抜け出す方策として、三番目の矢として今年の6月、「日本再興戦略 - JAPAN is BACK」が閣議決定されました。およそ100ページからなる本文と詳細な工程表・ロードマップからなる資料では、医薬品・医療機器産業を含む医療分野・健康長寿産業を、世界で戦える有力な戦略分野の一つとして、また、成長戦略実現の為の牽引役として位置づけております。そこには、「日本が国際的な強み」を持ち、「グローバル市場の成長」が期待でき、「一定の戦略分野が見込めるテーマ」として4つのテーマが選定されております。そのテーマの一つが「国民の「健康寿命」の延伸」で、その為実現すべき社会像のひとつとして「医療関連産業の活性化により、必要な世界最先端の医療が受けられる社会」が掲げられております。その社会像の実現に向けた具体的な施策として、医療分野の研究開発の司令塔機能（日本版NIH）の創設、医薬品・医療機器開発および再生医療研究を加速させる規制・制度改革、革新的な研究開発の推進、独立行政法人医薬品医療機器総合機構（PMDA）の強化、などが具体的な工程表および達成すべき成果目標とともに記載されております。そして「異次元」のスピードによって政策を実行していく事が力強く謳われております。ここからは、医薬品・医療機器分野が、これから更なる発展が期待される分野であり、また、日本を再興し、「この次元」から抜け出していく牽引役としておおいに期待されている産業の一つであることが伺えます。日本は新薬を生み出すこ

とのできる数少ない国の一つであります。その日本に住んでいる国民の方々が、世界最先端の医療、革新的な医薬品を必要ときに享受できないことは、非常に不幸なことでもあります。「この次元」から抜け出し、経済成長を成し遂げる為の牽引役として、国民の皆様の期待に答え、「国民の「健康寿命」の延伸」に確実に寄与していかなくてはなりません。医薬品産業に身をおくものとして、より重大になる製薬業界の使命と責任、そして国民の方々の大いなる期待を痛感するとともに、確実に実績を出し貢献する義務があると考えております。

昨年京都大学、山中伸弥教授のノーベル医学生理学賞の受賞は、同じライフサイエンス分野にかかわる者にとっては非常にうれしいニュースであるとともに、わが国の生命科学研究が非常に高いレベルにあることを改めて示すこととなりました。山中先生以外にも、1987年の利根川進先生の医学生理学賞、化学賞でも2001年の野依良治先生、2002年田中幸一先生、2008年下村脩先生、2010年鈴木章先生など、日本には革新的医薬品の創製に必須の研究によってノーベル賞を受賞された先生方が非常に多くいらっしゃいます。ライフサイエンス分野におけるアカデミアの基礎研究能力が世界的に高いレベルにあることは言うに及ばません。しかし、その最新の研究成果や先端技術を如何に実用化・事業化し医療現場に届けていくのか、革新的医薬品として創り出していくのか、が日本の大きな課題であることが言われ続けてきました。「日本再興戦略-JAPAN is BACK」では、必要性は言われながらも棚上げとなっていた日本版NIHの創設や、その創設に先行した創薬支援ネットワークの構築による創薬支援を始め、新薬創出に向けた研究開発支援策が記載されています。当社が所属する日本製薬工業協会でも、「革新的新薬の創出等による「国民健康」の維持・向上」、「先端的研究活動による「科学技術レベル」の発展に寄与」、「経済成長の牽引役として「強い日本」の復活に寄与」を製薬業界の3つの決意として掲げています。ライフサイエンスにかかわる産官学、総てのものが一体となって確実に成果を上げていかなければいけない使命と責任を感じます。

近代の日本は40年周期で隆盛と衰微を繰り返しているとの話があります。ペリー来航から日露戦争までの隆盛期、日露戦争から太平洋戦争終戦までの衰退期、サ

ンフランシスコ平和条約締結による主権回復からバブル崩壊までの隆盛期、そしてバブル崩壊後から現在と、まさに今日の日本は衰微に向け「異次元」の世界を漂っているのかもしれない。労働者が減少していくという少子高齢化社会の到来、資源・エネルギー問題、国家財政問題など、「課題先進国」とまで言われるようになった日本。このように環境は大きく変化していますが、時代が変わっても、どのような状況下にあっても、たとえ「異次元」の世界になろうとも、変わらないものは新薬メーカーに課せられた使命であると考えます。新薬メーカーの使命とは、新しいメカニズムの新しい薬を開発することです。国内で使用できない未承認薬を手掛けながら、新しいメカニズムの薬剤を開発し続けることです。より有効で安全な医薬品を安定的に供給するという高い使命感・倫理観を持ち、社会的責任を果たしていかなければなりません。それはどんな「次元」になろうとも普遍的な使命であると考えます。

当社は冒頭の松本市で創業して67年が経過いたしました。創業以来、「研究開発なくして製薬企業にあらず」の言葉のもと、独創的新薬の研究に挑戦し歩んでまいりました。その言葉は当社の研究開発の姿勢を貫くバックボーンであり、世界の人々の健康と幸福に対する社員一人ひとりの熱い思いが込められています。新薬メーカーが新薬を出すことは真理であり、それは当社が生まれたときから変わっていません。そして、当社は「病気に悩む患者さんの苦しみを軽減し喜びの時間を増やす為、日本から世界へ、世界から日本へ、独創的な新薬および経済的に負担の少ない製品を早く患者さんへ届けるよう、英知を結集する」をビジョンとした創薬研究開発型企業を目指しております。

これからも創業以来の「研究開発なくして製薬企業にあらず」の言葉を胸に、国民の皆様の期待にこたえるべく、新薬メーカーとしての使命と責任を常に意識し、薬事法、医療法を遵守しながら医療関連製品の安全確保対策および品質管理の徹底・充実を図り、良質な医療の提供に寄与してまいります。

## 10月末発売!

### 「JAPIC医療用・一般用医薬品集インストール版2013年10月版」

- ◇医療用および一般用医薬品の添付文書情報を収録したWindows対応CD-ROM。  
(医療用は2013年10月、一般用は2013年9月までのJAPIC入手分を収録)
- ◇製品情報、医薬品集本文データの検索・表示・印刷・データ出力が可能。データ出力形式は、タブ区切り/カンマ区切りテキスト(csv)から選択できます。
- ◇薬価、先発品等/後発品情報、規制区分、剤形、添加物、薬剤識別コード情報なども収録し、多様な検索が可能です。
- ◇完全インストール仕様により、スピーディな検索・結果表示を実現。インターネット環境のない薬剤モニタリング業務などにも最適です。
- ◇インターネット経由で、最新の添付文書PDFの表示も可能です。  
(医療用:週1回更新、一般用:月1回更新)
- ◇単品¥15,000(税込)。年間セット4枚(10月・1月・4月・7月)¥25,000(税込)。



### 「JAPIC OTC医薬品CD-ROM 2013年10月版」

- ◇一般用医薬品(一部の医薬部外品含む)の添付文書記載情報(2013年9月までのJAPIC入手分)を収録したWindows対応CD-ROM。
- ◇一般用医薬品データの検索・表示・印刷・テキストデータ出力が可能。
- ◇検索項目は、成分名、添加物、リスク区分や小児に使える医薬品等。
- ◇インターネット経由で、添付文書PDFの表示も可能です。
- ◇JANコードによる製品直接表示機能も搭載。
- ◇¥3,150(税込)/単回。



[お問合せ先] 事務局 業務・渉外担当 (TEL:0120-181-276、FAX:0120-181-461)

## 年内発刊!

### 「成分から調べる 医薬品副作用報告一覧(改訂版)」(仮称)

既刊「成分から調べる 医薬品副作用報告一覧 2004~2009年」(平成23年5月発刊)を最新情報にアップデートした改訂版を年内に発刊致します。本書は医薬品医療機器情報提供ホームページ掲載の“副作用が疑われる症例報告”を成分ごとにまとめ、参考情報として添付文書記載の効能効果及び重大な副作用を付記したものです。

医薬品に対して、いったいどのような副作用が報告されているのか、その傾向について一目で判る書籍となっております。  
体裁等:A5判。年内発刊予定。

## 医薬品集 好評発売中!

### ◆JAPIC「医療用医薬品集2014」検索用DVD付を8月26日に発刊しました

- ・6月21日付の後発品薬価収載、効能追加等を含む、7月3日入手分までの情報を収載(約19,000製品)
- ・医療用医薬品添付文書情報を有効成分(約2,100成分)ごとにまとめて掲載。約1,400成分については「構造式」も掲載
- ・同一成分内での剤形の違い・製品の違いにより、効能・効果が異なる場合はその違いを明記
- ・先発品(またはそれに準じると思われる医薬品)と後発品及び局方品が明確に区別できるように記載

◆価格: ¥13,650 (税込) ・B5判

検索用DVD (非インストール版) 単品での販売もごさいます。¥8,000 (税込)。

〈お問合せ先: 事務局業務・渉外担当 TEL: 0120-181-276〉

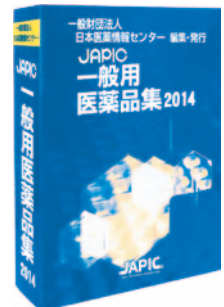


### ◆JAPIC「一般用医薬品集2014」を9月2日に発刊しました

- ・国内流通の一般用医薬品、約11,000製品を収録(2013年7月までの一般用医薬品情報を収載)
- ・2013年3月に発出された一般用漢方製剤の添付文書等に記載する使用上の注意に関する通知を掲載
- ・最新の添付文書を日本製薬団体連合会の委託を受け収集。国内流通の一般用医薬品をほぼ全て網羅。医薬品製品ごとのリスク区分を本文(製品説明部分)及び50音索引に掲載
- ・付録: 一般用医薬品のリスク区分一覧(成分)・ブランド名別成分比較表・国内副作用報告の状況・重篤副作用疾患別対応マニュアル(一部)を収載

◆価格: ¥9,450 (税込) ・B5判

〈お問合せ先: 事務局業務・渉外担当 TEL: 0120-181-276〉



## ❖ JAPICサービスの紹介 ❖

### ■ 保険請求の請求時の効率化、医薬品と病名のチェックに！ 医薬品と対応病名検索システム“病名ナビ”

本検索サービスは「添付文書記載病名集」（書籍）の電子版です。「添付文書記載病名集」は2005年の初版発行以来、医薬品に対応する標準病名が一覧になっていることから、医療機関をはじめ皆様からご好評頂いております。

医療機関のカルテやレセプトの電子化が進むにつれて、標準的な病名の必要性が年々高まり、現在では必須となっておりますが、医療保険の根拠となる医療用医薬品の添付文書では、その効能効果は必ずしも標準病名で記載されてはおりません。JAPICでは添付文書の効能効果に対応した標準病名を一覧できる書籍として、「添付文書記載病名集」を発行いたしました。

書籍版は初版発行以降、これまでに改訂版を5冊発刊しておりますが、新薬追加や既存薬の効能追加は頻繁に行われるため、書籍で最新情報に対応することは難しくなります。そこで情報の変化に対応すべく、JAPICでは電子版として本検索サービスを2009年にリリースいたしました。搭載データの毎月更新を実現化し、常に新しい情報を提供しております。

また、本検索サービスでは電子版の特長を生かし、対応する標準病名を医薬品名から検索、若しくは対応する効能効果をもつ医薬品名を病名から検索するなど双方向の検索が可能です。また、検索結果となる病名の一覧は医薬品（商品名）ごとに表示し、一覧として表示した標準病名は医薬品の効能効果に照らし合せて、その妥当性（評価）を「◎、○、△、×」で表示しておりますので、保険請求の請求時の効率化、医薬品と病名のチェックに是非ご活用下さい。

#### 【評価（◎、○、△、×）について】

添付文書「効能効果」と標準病名の関連付けの妥当性については専門医師、薬剤師の評価による妥当性をランク付けてあります。処方薬に対応する標準病名の選択の際、参考となります。

◎：効能効果と一致する標準病名 / ○：妥当とする /

△：妥当性に判断を要する / ×：関連はあるが妥当性を欠く

#### 【特長】

- ◆ 医療用医薬品17,000品目の効能効果に対応するICD10対応電子カルテ用標準病名（約14,000）を関連付け
- ◆ 標準病名は同義・慣用病名からも検索可能（採用同義・慣用病名54,000）。合計68,000病名
- ◆ 完全に独立したシステム。現在ご使用中のシステムにも導入可能
- ◆ 最新添付文書（PDFファイル）を瞬時に表示
- ◆ 医薬品のレセ電コード、病名のレセ電コード付き
- ◆ 主要な情報を網羅：商品名、一般名、規格単位、薬価、会社名、薬効番号、効能効果、標準病名、ICD10、評価、レセ電算コード、用法用量、警告、禁忌等
- ◆ データは毎月更新

【利用方法・料金】(料金はいずれも税別)

○医療機関個人利用システム (Web版)

JAPIC設置のサーバに接続し、インターネット経由でご利用いただきます(インターネット接続環境が必要です)。

【データ使用料】1ユーザ:1,600円/月

○院内共同利用システム (LAN版)

検索システム及び病名/医薬品データを提供いたします。病院内にサーバをご用意頂き、院内ネットワーク(外部接続なし)でご利用いただけます(接続台数に制限はありません)

【初期導入費用】 100,000円

【データ使用料】 病院200床以上 21,000円/月。 病院200床未満 9,000円/月

検索結果イメージ

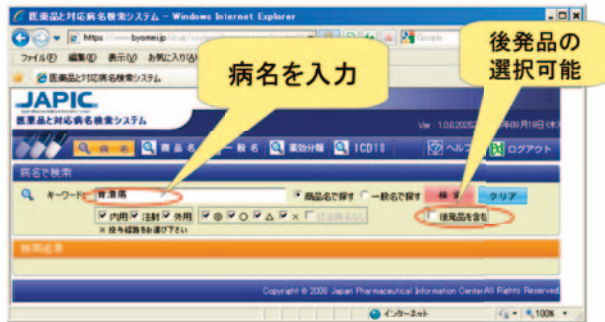
①医薬品と対応病名検索システム (トップページ)



# ❖ JAPICサービスの紹介 ❖

# トピックス TOPICS

## ②病名入力：胃潰瘍



## ③該当製品リスト：胃潰瘍（病名）



## ④タケロンOD錠の標準病名

効能効果	標準病名	ICD10	評価	レセ電算コード
胃潰瘍、十二指腸潰瘍	胃潰瘍	K269	◎	5319009
	胃十二指腸潰瘍	K279	◎	8944007
	十二指腸潰瘍	K269	◎	5329002
	十二指腸ひらん	K269	○	5329003
	出血性胃潰瘍	K254	○	
	出血性胃潰瘍穿孔	K256	○	8945130
	出血性十二指腸潰瘍	K264	○	8934641
	出血性十二指腸潰瘍穿孔	K266	○	8945131
	心因性胃潰瘍	F54	○	8934899
	ステロイド潰瘍穿孔	K255	○	8935734
	穿孔性胃潰瘍	K255	○	5310002
	穿孔性十二指腸潰瘍	K265	○	5325003
	難治性胃潰瘍	K259	○	5317002
	慢性胃潰瘍	K257	○	5317003
	慢性十二指腸潰瘍	K267	○	8945143
NSAID十二指腸潰瘍	K269	△	89421E8	
胃ひらん	K269	△	5310001	
神経性胃炎	F54	△	3064021	
胃腸神経症	F453	×	3064004	
心因性心臓症	F54	×	8941367	
心因性皮膚炎	F54	×	8934908	

※本検索システムの簡易表示板である「効能効果の対応標準病名」は、政府の「IT新改革戦略」に基づく「重点計画-2008 (ITによる医療の構造改革)」の関連施策の一つである「医薬品の添付文書に記載する病名の標準化の推進」に資するため、厚生労働省の指導の下、JAPIC及び(独) 医薬品医療機器総合機構 (PMDA) で公開しております。

※特許取得：特許第4516809号 (H22.5.21)、特許第5135080号 (H24.11.16)

お問合せ先：業務・渉外担当0120-181-276



# おすすめの 一冊

## JAPIC 所蔵の書籍のご紹介 ～海外の医薬品集編～

### ■ フィンランドの医薬品集



書名	Pharmaca Fennica 2013
出版社	Lääketietokeskus
言語	フィンランド語
サイズ	24cm×16cm (I)、28cm×21cm (II-IV)
構成	4分冊
ISSN	0355-7472

フィンランドは北欧諸国の1つで、スウェーデンやノルウェー、ロシアなどと隣接しています。公用語はフィンランド語とスウェーデン語の2つありますが、本書はフィンランド語で執筆されています。

4分冊で構成されており、1冊目はポケット医薬品集のように簡易なモノグラフや、製薬企業一覧、薬効分類別の索引などが掲載されています。サイズも小さいため持ち運びやすく、モノグラフにも品名、製薬企業名、効能、投与量と投与方法、禁忌、警告、妊娠や授乳への影響、副作用、服薬指導など、基本的な事項が掲載されていて便利です。

2冊目以降は医薬品のより詳細なモノグラフが掲載されています。モノグラフのそれぞれの記述に対し、試験結果の数値なども掲載され、詳しく説明されています。

JAPIC 附属図書館は日本で最も多くの海外の医薬品集を収集している図書館です。  
一般公開ですので、どなたでもご利用いただけます。受付カウンターで入館手続きをお済ませの上、お入りください。  
(※貸し出しはいたしませんので、ご了承ください。)

開館日/時間：月～金

9:00～17:30

休館日：土・日・祝祭日、年末年始(12月29日～1月4日)

【お問合せ先】図書館部門

TEL 03-5466-1827 E-mail: tosho@japic.or.jp

# 最近の話題

## ジェネリック医薬品に関する最近の動き

日本ジェネリック製薬協会理事長  
伏見 環 (Fushimi Tamaki)

### 1. ジェネリック医薬品について

ジェネリック医薬品（後発医薬品。以下GE医薬品とも記載。）は、先発医薬品の特許満了後に、厚生労働大臣が製造販売の承認を行っている医療用の医薬品であり、先発医薬品（新薬）と同一の有効成分を同一量含有し、同一経路により投与され、基本的に同一の用法・用量、同一の効能・効果を有している。そのため、先発医薬品（新薬）と代替可能な医薬品と位置づけることができる。欧米においては、これらの医薬品の多くが、その販売名に一般の名称（generic name）を冠していることから、我が国でもジェネリック医薬品と呼称されるようになってきた。

GE医薬品は、一般的に先発医薬品（新薬）に比べ開発費用が安く抑えられることから、薬価が先発医薬品（新薬）に比べ低く設定されている。後発医薬品の使用を促進することは、医療費の効率的使用を通して、保険医療財政の改善など国民医療を守ることに大きく資するものである。

このため、政府においては、近年、様々なGE医薬品の使用促進策を講じてきたが、本稿では、それらを簡単にご紹介する。

### 2. 使用促進の取り組み (1)

医療保険制度の分野においては、GE医薬品を含む処方への診療報酬上の評価の導入（H14年）や一般名処方加算の導入（H24年）、処方箋様式の変更（H18年；GE医薬品への変更可の場合に保険医が署名等を行う → H20年；GE医薬品への変更が不可の場合に署名等を行う → H24年；個々の処方医薬品ごとにGE医薬品への変更可否を明示）、後発医薬品調剤体制加算（H20年、調剤薬局での後発医薬品調剤割合の実績に応じた調剤点数の加算）、薬剤情報提供文書を活用した後発医薬品の情報提供への評価（H24年）などの手当がなされた。

安定供給の確保に関しては、薬価収載品目は最低5年間製造販売を継続し必要在庫を確保すること等（H18年）の行政指導が開始され、また品質については、国立医薬品食品衛生研究所に新たに設置された「ジェネリック医薬品品質情報検討会」において、学会発表や研究論文などで提起されたものに関し試験検査の実施も含め品質の確認を行う体制の構築（H20年）等の対応がなされた。情報提供に関しては、添付文書の記載内容の充実（H18年）、ホームページ掲載等も含めた情報提供体制

の整備（H19年）が指導された。また、先発医薬品との効能効果の相違の是正等の指導（H18年）も行われた。

### 3. 使用促進の取り組み (2) ～「アクションプログラム」～

H19年6月19日には、「平成24年度までに後発医薬品の数量シェアを30%（現状から倍増）以上にする。」という数値目標が明記された「経済財政改革の基本方針2007」が閣議決定された。その後、H19年10月に厚生労働省が「後発医薬品の安心使用促進アクションプログラム」を公表した。これは、“24年度までに30%以上”という政府目標を達成するために、国及び関係者の取り組むべき課題を列挙したものである。同プログラムで「後発医薬品メーカーの取組」として列挙されたものには、

(1) 安定供給関係としては、“納品までの時間短縮（卸業者への翌日までの配送100%）”、“在庫の確保（品切れ品目ゼロ）”等が、(2) 品質確保関係では“長期保存試験や無包装状態での安定性試験など承認要件でない試験の実施”、“医薬工業協会（日本ジェネリック製薬協会の旧名称）での関連文献の調査・評価”等が、(3) 情報提供関係では、医療関係者への情報提供の充実等が含まれる。

ジェネリック医薬品企業41社（平成25年8月末）からなる日本ジェネリック製薬協会（GE薬協）では、H19年8月に協会内に会長をリーダーとする「信頼性向上プロジェクト」を設置し、本アクションプログラムに関し、業界団体としての対応、会員企業での対応の督促等を行うとともに、毎年度、会員各社の達成状況をとりまとめ公表してきた。

本アクションプログラムは、GE医薬品の数量シェアを30%以上達成の目標年度とされたH24年度をもって終了した。GE医薬品のシェアは、同プログラムが始まったH19年度の17.8%からH24年度の25.8%まで伸長したが、政府目標の30%には達しなかった（図1）。

一方、同プログラムで後発GE医薬品企業が取り組むべきとされた事項については、「品切れ品目ゼロ」以外の項目については、H24年度までに概ね達成できたと考えている。なお、H24年度は海外の原薬製造所のGMP不適合の問題などにより品切れが発生した。

### 4. 使用促進の取り組み (3) ～「ロードマップ」～

H24年2月17日閣議決定で「ロードマップを作成しGE医薬品の総合的な使用促進を図る」とされたことをうけ

て、H25年4月6日、厚生労働省は「後発医薬品のさらなる使用促進のためのロードマップ」を発表した。その概要は(図2)のとおりである。

本ロードマップでは、GE医薬品シェアを“平成30年度末に60%以上”とする新たな目標が設定されている。ただし、本ロードマップでの数量シェアの計算方法は、国際的な比較が容易であることも勘案し、アクションプログラムの時とは以下のとおり異なっている。

#### <① ロードマップでのシェア計算方法>

GE医薬品数量シェア = [GE医薬品の数量] / ([GE医薬品のある先発医薬品の数量] + [GE医薬品の数量])

#### <② アクションプログラムでのシェア計算方法>

GE医薬品数量シェア = [GE医薬品の数量] / [全医療用医薬品の数量シェア]

H23年9月の薬価調査結果に基づき計算すると、②は22.8%、①は39.9%となる。

(24年10月31日 中医協薬価専門部会資料)

ロードマップにおいては、国、都道府県、保険者、GE医薬品メーカー及び業界団体のそれぞれが取り組むべき事項が、図2の①から⑥の各分野ごとに列挙されている。以下にロードマップで、GE医薬品メーカー及び業界団体での取組とされた内容について簡単に説明する。

「安定供給」に関しては、業界団体が平成25年度中に作成する「ジェネリック医薬品供給ガイドライン」に準拠し、各GE医薬品メーカーにおいて「安定供給マニュアル」をH26年中に作成すること、アクションプログラムに引き続き、「品切れ品目ゼロ」をH27年度に達成すること等がGE医薬品メーカー及び業界団体に求められている。また、GE医薬品メーカーが海外の製剤や原薬の製造所

に対し適切で合理的な品質管理が行えるよう、専門的な人材活用の検討も求めている。これらは、前述のとおり、アクションプログラム最終年度においても「品切れ品目ゼロ」が達成できず、また海外の原薬製造所でGMP不適合があったことも踏まえてのことと考えられる。

「品質に対する信頼性の確保」に関しては、業界団体に引き続き国の文献調査に協力することや、各企業に対し積極的な情報提供を求めている。

「情報提供の方策」においては、「後発医薬品メーカーが、業界団体に運営している『ジェネリック医薬品情報提供システム』を利用して情報提供を行っていく」とされている。

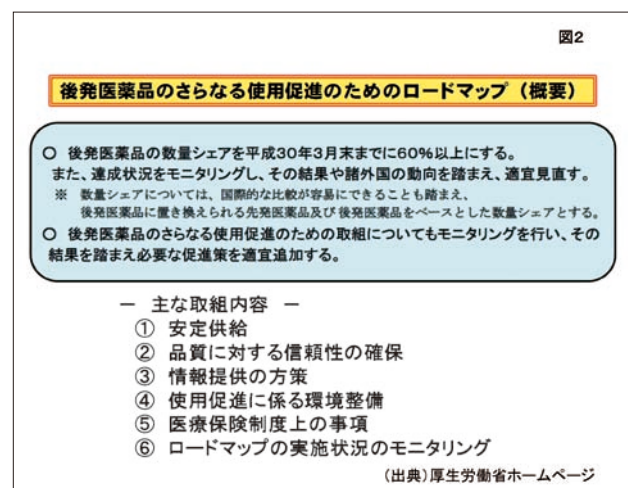
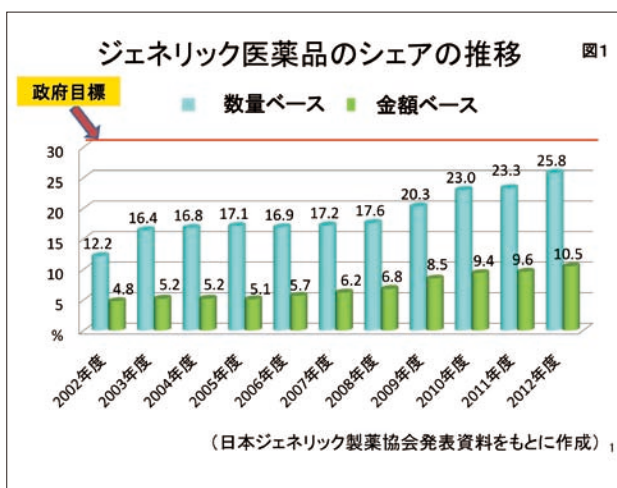
この点に応え、GE薬協では、協会の「ジェネリック医薬品情報提供システム」を会員以外のGE医薬品製造販売業者等の会社にも参加していただくため、「情報提供システム」会員制度をH25年6月に新設したところである。

このほかにも、ロードマップはアクションプログラムに比べて、GE医薬品を取扱うすべてのメーカーを対象とする(GE薬協会員以外も対象となる)ことが明記され、また都道府県や保険者の取組に係る事項も増えるなど、GE医薬品の使用促進に向けさらに踏み込んだものとなっている。

新たにロードマップが策定されたことを受けて、GE薬協では「信頼性向上プロジェクト」を改編、体制を強化し、ロードマップで定められた各種の課題、すなわち「安定供給」、「品質に対する信頼性の確保」、「情報提供の方策」等に積極的に対応してまいりたいと考えている。

引き続き、関係者のみなさまのご理解をお願い申し上げます。

(本稿中の意見や見解は、筆者の個人的なものである。)



# 薬剤師の現場

## 現場発の小児医薬品開発

—より有効でより安全な医薬品を子どもたちへ—

独立行政法人国立成育医療研究センター  
薬剤部 小児と薬ネットワーク推進室

栗山 猛 (Kuriyama Takeshi)

はじめに

私は、平成18年4月から独立行政法人国立成育医療研究センター（国内唯一の小児医療専門のナショナルセンター）薬剤部に所属し、薬剤師業務、医療現場主導の小児医薬品開発（治験）環境の整備に取り組んでいます。

薬学部を卒業後、国立病院（現在の国立病院機構）に就職し病院薬剤師としての人生がスタートしましたが、私が就職した頃は、院外処方せん発行は皆無の状態、“調剤マシーン”となり調剤に明け暮れる毎日でした。その中で、現職勤務を命じられた時には、小児の調剤となると散剤、水剤の調剤が主となり時間も労力もかかること、小児での特殊性（発達に応じた薬物動態や小児薬用量）を全て把握しているものではありませんでしたので正直困惑しました。

また、それまでは小児医療（小児医薬品開発の重要性など）について、特別な興味も知識もありませんでした。しかし、様々な人との出会いや日々の業務を通して、今では小児医療の向上並びに小児の服用に適した医薬品開発の必要性、重要性を訴えていきたいと思っています。

小児医薬品開発の必要性と現状

小児調剤は、薬剤を単に秤量するのみでなく錠剤を粉碎したりカプセル剤の内容物を取りだしたり、水剤にするなど煩雑なものも多いです。私はこれら調剤業務と同時に治験の管理業務を担い、そこで小児医薬品開発の遅れについても触れることになりました。また、疾患を抱える多くの子どもたちを目の当たりにして、何とかしたいという気持ちが湧いてきましたが、ただの現場の薬剤師では得策もありませんでした。

現職に就いて数年が経った頃、製薬企業出身の方から「何故、現場の薬剤師は錠剤やカプセル剤を加工（剤形変更）するのを機械的にやるのか。剤形変更した時の有

効性や安定性、保存性は科学的に評価しているのか。剤形変更したときの“味や臭い”についても把握しているのか。」と質問され、私には的確な回答がありませんでした。私自身恥ずかしい話ですが、指摘されたように機械的に剤形変更してしまし、味や臭いも粉碎、調剤した時には何となく分かりますが、実際に味わったことなどなかったからです。医師の処方せん通りに調剤し（勿論、必要な場合には疑義照会しますが）、それを特段に不思議なことと思わず、子どもに“お大事にしてください”と言っていたのです。これで本当に科学者としての薬剤師の責務を果たしているのでしょうか。それから私自身も小児医薬品開発の必要性を訴えていく気持ちが確かなものとなりました。

一方、日本で汎用されている医療用医薬品のうち、添付文書に小児に対する用法・用量が明確にされていない、いわゆる「適応外使用」が全体の60～70%を占めているといわれていますが、明確に記載されている薬剤のみで治療することは現実的に不可能です。近年、「ドラッグ・ラグ」が取り上げられていますが、これは海外では承認されて使用できる医薬品が国内では承認されておらず使用できないということです。日本で使用できるようになるためには、厚生労働省に薬事法上の適応症を取得する必要があり、そのためには、その医薬品の有効性と安全性を評価・検証するための臨床試験（いわゆる「治験」）の実施が原則必要となります。治験は、基本的に製薬企業が主体となって実施しますが、採算性の低い医薬品・医療機器では製薬企業も開発を進んで実施してはくれません。特に小児では、その傾向が顕著となる場合もあります。小児で恒常的に剤形変更されている薬剤も製薬企業に小児の服用に適した製剤を開発して貰えばいいのですが、医療現場から要望しても「ニーズは？」と言われてしまえば、それ以上は言えません。それまでは剤形

変更されている薬剤の種類や数量などを具体的に調査したデータがなかったのです。勿論、製薬企業もボランティアではありませんので、いくら気持ちで“必要だ”と訴えても、採算の見込みがなければ開発しないのは道理です。製薬企業数社にインタビューしたところ、「社会的な意義は良く理解しているが、経済的な面で進んで開発できない」という声が多く寄せられました。このような状況を打開していくためにも、医療現場が主体となって治験の効率化を図り、小児医薬品開発が魅力的で容易となる環境とシーズを提供して、適応外使用の解決、小児医薬品の早期開発につなげていく活動が必要となります。

#### 小児治験ネットワーク

小児治験を促進するためにも、まずは小児治験を実施する医療機関での治験実施体制整備を進めていく必要があります。治験を数多く実施している医療機関であれば、自ずと治験実施体制も整備されていきますが、小児では治験数が少ないため、小児施設の治験実施体制は盤石と言い難い状況です。そこで、小児医療施設による強固な“ネットワーク”を形成し、ネットワークを通して治験実施体制を整備していくことが必要なのです。

平成22年11月に日本小児総合医療施設協議会加盟施設を中心に日本で初めて小児領域に特化した「小児治験ネットワーク」が設立されました。現在、日本では「治験の効率化」、「症例集積性の向上」の観点から、治験実施施設のネットワーク化が推進され、国内でも数多くの治験ネットワークが設立されています。しかし、製薬企業からすると、日本での治験ネットワークは、その機能を果たしていないとも言われています。昨今、治験ネットワークの機能について様々な議論がされているところですが、その中でも“治験ネットワーク（集合体）が1施設”であるようなネットワークの機能、すなわち治験を実施する際に薬事法並びに関連法規で必要となる標準業務手順書、同意・説明文書の統一化、さらに事務局機能、治験審査委員会、契約書、必須文書、情報公開などの一元管理が求められています。逆に言えば、これらの条件を満たさなければ、治験ネットワークとしての魅力がない、価値がないということになってしまいます。これらを念頭に真の治験ネットワークを構築することを掲げましたが、小児治験ネットワークは、その加盟施設の設立母体も様々（小児施設、大学病院、国立病院機構病院、総合病院など）であり、それぞれの背景や歴史・作法も異なることから、

製薬企業からの要件を満たしていくのは簡単なものではありませんでした。設立当初は、「具体的に何をやるのか」、「何が出来るのか」、「夢物語」等々の声があったものです。しかしそこは皆、小児医療の現場で苦労している人たちですので、小児医薬品開発の必要性を訴え、気持ちを共有していくことについて然程時間はかかりませんでした。現場の担当者の判断のみでは解決しないこともあり、施設の協力で乗り越えている状況です。

また、加盟施設で剤形変更している薬剤について、その種類と数量を把握するためニーズ調査を実施しました。平成23年に当時の加盟施設（27施設）に調査したところ、年間10万錠以上を粉碎している薬剤が3品目あり、かつ80品目以上の薬剤が剤形変更を伴う予製（その都度粉碎等の加工をすることなく、予め調整しておく）をしていることが分かりました。このデータを基に製薬企業に訴えています。原薬のライセンス問題などもあり、直ぐには開発に漕ぎ着けませんでした。しかし、小児の服用に適した製剤を製造してもいいと提案してくれている製薬企業もあります。少しでも早く子どもたちが安心して、かつ服用し易い薬剤が開発されることが望まれています。

#### おわりに

小児医薬品開発は、欧米に比べると整備が遅れている感は否めないところです。しかし、様々な施策を通して、日本でも取り組みが活発化しています。これらを進めていくには、国（行政側）の政策も勿論重要ですが、我々医療現場で活動している者でも小児医薬品開発推進に向けた基盤作りなど出来ることが必ずあります。

医療現場と製薬企業では、その立場は異なりますが、“より良い薬を早く患者様に”という気持ちは同じ筈です。どちらが悪いなどの議論をするのではなく、医療現場と製薬企業、行政がそれぞれ手を携えて医薬品開発に取り組んでいくことが本当に必要なのではないのでしょうか。1人の力には限界がありますが、連携していくことで大きな力になると信じていますし、医療の従事者として医薬品開発の一翼を担うべきであると考えています。

未来を担う子どもたちのために、我々大人がやるしかないのです。

“いつやるの”、今でしょ！

# 外国政府等の医薬品・医療機器等の 安全性に関する規制措置情報より – (抜粋)

2013年7月29日～8月30日分のJAPIC WEEKLY NEWS (No.413-417)の記事から抜粋

## ■米FDA

- Nizoral (ketoconazole) に関するDrug Safety Communication: 致死的な肝障害、薬剤相互作用および副腎障害の可能性; 使用制限、警告などについて  
<<http://www.fda.gov/Safety/MedWatch/SafetyInformation/SafetyAlertsforHumanMedicalProducts/ucm362672.htm>>
- mefloquine hydrochlorideのDrug Safety Communication: 重篤な精神および神経学的副作用リスクによる表示の改訂  
<<http://www.fda.gov/Safety/MedWatch/SafetyInformation/SafetyAlertsforHumanMedicalProducts/ucm362887.htm>>
- acetaminophenに関するDrug Safety Communication: 重篤な皮膚反応リスクについて  
<<http://www.fda.gov/Safety/MedWatch/SafetyInformation/SafetyAlertsforHumanMedicalProducts/ucm363519.htm>>
- fluoroquinolone系抗生物質のDrug Safety Communication: 永続的な可能性のある神経損傷リスクについて  
<<http://www.fda.gov/Safety/MedWatch/SafetyInformation/SafetyAlertsforHumanMedicalProducts/ucm365302.htm>>
- Gilenya (fingolimod) のDrug Safety Communication: 稀な脳感染症 (進行性多巣性白質脳症) の調査について  
<<http://www.fda.gov/Safety/MedWatch/SafetyInformation/SafetyAlertsforHumanMedicalProducts/ucm366751.htm>>

## ■Health Canada

- RITUXAN (rituximab) 使用患者におけるB型肝炎ウイルスの再発現: スクリーニングおよび管理方法の更新  
<<http://healthycanadians.gc.ca/recall-alert-rappel-avis/hc-sc/2013/34765a-eng.php>>
- calcitonin含有医薬品の使用条件および入手に関する重要な変更: 長期使用による悪性腫瘍リスクのわずかな増加などについて  
<<http://healthycanadians.gc.ca/recall-alert-rappel-avis/hc-sc/2013/34843a-eng.php>>
- VOTRIENT (pazopanib hydrochloride): 肝機能モニタリングの頻度に関する重要な変更について  
<<http://healthycanadians.gc.ca/recall-alert-rappel-avis/hc-sc/2013/34855a-eng.php>>

## ■EU・EMA

- GLP-1ベース薬に関する調査が終了; 膵臓の有害事象リスク上昇に関する懸念は確認されないと結論  
<[http://www.ema.europa.eu/docs/en\\_GB/document\\_library/Press\\_release/2013/07/WC500146619.pdf](http://www.ema.europa.eu/docs/en_GB/document_library/Press_release/2013/07/WC500146619.pdf)>
- EMAは経口ketoconazoleの製造販売承認の停止を勧告: 肝障害リスクが真菌感染症の治療におけるベネフィットを上回ると結論  
<[http://www.ema.europa.eu/docs/en\\_GB/document\\_library/Press\\_release/2013/07/WC500146614.pdf](http://www.ema.europa.eu/docs/en_GB/document_library/Press_release/2013/07/WC500146614.pdf)>
- EMAはmetoclopramideの使用法に関する変更を勧告; 重篤となる可能性のある既知の神経学的副作用 (脳および神経) リスク低減のための用量および使用期間の制限など  
<[http://www.ema.europa.eu/docs/en\\_GB/document\\_library/Press\\_release/2013/07/WC500146614.pdf](http://www.ema.europa.eu/docs/en_GB/document_library/Press_release/2013/07/WC500146614.pdf)>

## ■独BfArM

- Neupogen (filgrastim) およびNeulasta (pegfilgrastim) のRote-Hand-Brief: 毛細血管漏出症候群のリスクについて  
<<http://www.bfarm.de/DE/Pharmakovigilanz/risikoinfo/2013/rhb-neupogen-neulasta.html>>

## ■仏ANSM

- Avastin (bevacizumab) による壊死性筋膜炎の報告に関する医療専門家向けレター  
<[http://www.ansm.sante.fr/content/download/51399/662709/version/1/file/DHPC-290729\\_AVASTIN.pdf](http://www.ansm.sante.fr/content/download/51399/662709/version/1/file/DHPC-290729_AVASTIN.pdf)>
- boric acidおよび/またはその誘導体 (borax) を含有する院内製剤、特別調合製剤の使用に関連したリスク: 警告; 生殖毒性などについて  
<<http://ansm.sante.fr/content/download/51295/661439/version/1/file/Mise-en-garde-25072013Acide-borique-preparations+hospitalieres.pdf>>

## ■豪TGA

- ロタウイルスワクチンの接種と腸重積症リスク  
<<http://www.tga.gov.au/safety/alerts-medicine-rotavirus-130828.htm>>

JAPIC事業部門 医薬文献情報 (海外) 担当

記事詳細およびその他の記事については、JAPIC Daily Mail (有料) もしくはJAPIC WEEKLY NEWS (無料) のサービスをご利用ください (JAPICホームページのサービス紹介: <<http://www.japic.or.jp/service/>> 参照)。JAPIC WEEKLY NEWSサービス提供を御希望の医療機関・大学の方は、事務局業務・渉外担当 (TEL 0120-181-276) までご連絡ください。

## 【新着資料案内 平成25年8月1日～平成25年8月30日受け入れ】

図書館で受け入れた書籍をご紹介します。この情報は附属図書館の蔵書検索 (<http://www.libblabo.jp/japic/home32.stm>) の図書新着案内でもご覧頂けます。これらの書籍をご購入される場合は、直接出版社へお問い合わせください。閲覧をご希望の場合は、JAPIC附属図書館 (TEL 03-5466-1827) までお越し下さい。

〈 配列は書名のアルファベット順、五十音順 〉

書名	著編者	出版者	出版年月
British National Formulary for children 2012-2013	Royal Pharmaceutical Society	BMJ Publishing Group	2012年
British National Formulary for children 2013-2014	Royal Pharmaceutical Society	BMJ Publishing Group	2013年
European Pharmacopoeia 8.0 8th edition	Council of Europe	Council of Europe	2013年7月
MIMS Annual Indonesia 23rd Edition 2013	Leong Wai Fun Ed.	UBM Medica Asia Pte Ltd	2013年
2013年版MR白書 MRの実態および教育研修の本調査	MR認定センター 編	MR認定センター	2013年8月
JAPIC一般用医薬品集2014	日本医薬情報センター 編	日本医薬情報センター	2013年9月
JAPIC医療用医薬品集2014	日本医薬情報センター 編	日本医薬情報センター	2013年8月
JAPIC医療用医薬品集2014 薬剤識別コード一覧	日本医薬情報センター 編	日本医薬情報センター	2013年8月
医薬品・医療衛生用品価格表 2013 平成25年度	薬事日報社 編	薬事日報社	2013年8月
医薬品承認申請ガイドブック2012-2013	日本薬剤師研修センター編	薬事日報社	2013年3月
オックスフォードへの旅立ち 一日本人とイギリス人乳癌の違いを求めて一	加藤孝男	朝日新聞出版	2010年9月
科学的根拠に基づく乳癌診療ガイドライン<1治療編> 2013年版	日本乳癌学会	金原出版	2013年6月
科学的根拠に基づく乳癌診療ガイドライン<2疫学・診断編> 2013年版	日本乳癌学会	金原出版	2013年6月
現代日本の図書館構想 ～戦後改革とその展開～	今まど子、高山正也、小出いずみ	勉誠出版	2013年7月
諸外国の薬剤給付制度と動向 改訂版	中村健、白神誠、岡部陽二	薬事日報社	2013年6月
小児急性中耳炎診療ガイドライン<2013年版>	日本耳鼻咽喉科感染症・エアロゾル学会 他	金原出版	2013年7月
ステムを知らばクスリがわかる～医薬品の名前～	宮田直樹	じほう	2013年2月
頭頸部癌診療ガイドライン<2013年版>	日本頭頸部癌学会	金原出版	2013年6月
日本版敗血症診療ガイドライン	日本集中治療医学会Sepsis Registry委員会	克誠堂出版	2013年7月
日本輸血・細胞治療学会 輸血検査技師リフレッシュコース記録	日本輸血・細胞治療学会	日本輸血細胞治療学会	2013年8月
保険薬事典 Plus+ 平成25年8月版 (適応・用法付 薬効別薬価基準)	薬業研究会 編	じほう	2013年8月
薬事法令ハンドブック承認許可要件省令 第5版		薬事日報社	2013年5月

## 情報提供一覧

【平成25年9月1日～9月30日提供】

出版物がお手許に届いていない場合、宛先変更の場合は当センター事務局 業務・渉外担当 (TEL 03-5466-1812) までお知らせ下さい。

情報提供一覧	発行日等	JAPIC作成の医薬品情報データベース	更新日
〈出版物・CD-ROM等〉		〈iyakuSearch〉 Free	<a href="http://database.japic.or.jp/">http://database.japic.or.jp/</a>
1. [JAPIC Pharma Report-海外医薬情報]	9月6日	1. 医薬文献情報	月 1 回
2. [添付文書入手一覧] 2013年8月分 (HP定期更新情報掲載)	9月2日	2. 学会演題情報	月 1 回
3. [JAPIC NEWS] No.354 10月号	9月27日	3. 医療用医薬品添付文書情報	毎 週
4. [JAPIC一般用医薬品集2014]	9月2日	4. 一般用医薬品添付文書情報	月 1 回
〈医薬品安全性情報・感染症情報・速報サービス等〉 (FAX、郵送、電子メール等で提供)		5. 臨床試験情報	随 時
1. [JAPIC Pharma Report海外医薬情報速報] No.897-900 (旧: 医薬関連情報速報FAXサービス)	毎 週	6. 日本の新薬	随 時
2. [医薬文献・学会情報速報サービス (JAPIC-Qサービス)]	毎 週	7. 学会開催情報	月 2 回
3. [JAPIC-Q Plusサービス]	毎月第一水曜日	8. 医薬品類似名称検索	随 時
4. [外国政府等の医薬品・医療機器の安全性に関する措置情報サービス (JAPIC Daily Mail)] No.2995-3013	毎 日	9. 効能効果の対応標準病名	月 1 回
5. [JAPIC Weekly News] No.417-420	毎週木曜日	〈iyakuSearchPlus〉	<a href="http://database.japic.or.jp/nw/index">http://database.japic.or.jp/nw/index</a>
6. [Regulations View Web版] No.270-271	9月13日・27日	1. 医薬文献情報プラス	月 1 回
7. [感染症情報 (JAPIC Daily Mail Plus)] No.507-511	毎週月曜日	2. 学会演題情報プラス	月 1 回
8. [PubMed代行検索サービス]	毎月第一・三水曜日	3. JAPIC Daily Mail DB	毎 日
		4. Regulations View DB (要:ID/PW)	月 2 回
		外部機関から提供しているJAPICデータベース	
		〈JIP e-infoStreamから提供〉	<a href="https://e-infostream.com/">https://e-infostream.com/</a>
		〈株式会社ジー・サーチJDreamⅢから提供〉	<a href="http://jdream3.com">http://jdream3.com</a>

JAPIC

# 医療用医薬品集2014

〈検索用DVD付〉



- ◆2013年6月後発品まで収載
- ◆約40年の編集実績による信頼と使いやすさ
- ◆国内流通全医薬品の最新情報に基づき作成
- ◆検索用DVD(非インストール版)付  
(DVD単体8,000円(税込)で別途販売しております。)
- ◆便利な「薬剤識別コード一覧」  
(冊子。別売2,940円 税込)の無料請求葉書付
- ◆類似薬選定のための「薬効別薬剤分類表」を収載
- ◆更新情報メールの無料提供(要登録)

好評発売中!!

B5判 約3,500頁 / 13,650円(税込)

## ■検索用(非インストール版) DVD Windows版とは

### ◆収録内容

- 医療用医薬品集
- 一般用医薬品集
- 薬剤識別コード一覧
- 薬価情報
- 後発品の全情報
- 添加物情報
- 最新添付文書画像(PDF)の表示機能付  
(無料・要インターネット接続。PDFは毎週更新)

定価: 8,000円(税込)

※インストール版(CD-ROM)は15,000円(税込)で別途販売しております。

JAPIC

# 一般用医薬品集2014

- ◆リスク区分(第1類~第3類医薬品)をわかりやすく表記。
- ◆最新の一般用医薬品添付文書を日本製薬団体連合会の委託を受け収集。
- ◆国内流通医薬品をほぼ網羅する12,000製品を収録。
- ◆個々の製品について製造・販売会社、組成、添加物、適応、用法、リスク区分を記載。
- ◆付録には、リスク区分情報、ブランド名別成分比較表、国内副作用報告の状況、重篤副作用疾患別対応マニュアル等を収録。

好評発売中!!

B5判 約2,000頁 / 9,450円(税込)



一般財団法人 日本医薬情報センター **JAPIC** 編集・発行 TEL 0120-181-276  
丸善出版株式会社 発売 TEL 03-3512-3256

上記書籍の他、電子カルテやオーダリングシステムに搭載可能なJAPIC添付文書関連データベース(添付文書データ及び病名データ)の販売も行っております。データの購入希望もしくはお問い合わせはJAPIC (TEL 0120-181-276) まで。

# Garden

ガーデン

このコーナーは薬用植物や身近な植物についてのヒトクチメモです。リフレッシュにどうぞ!!

## たまごたけ

2010年の夏は猛暑で、その後に雨が多かったためか、茸は豊作であった。従って、中毒も数多く報告された。毒毒しい色と形をしたこの卵茸は毒茸の多い天狗茸の仲間の中でも例外的に食用で、しかも、とても美味である。軸に縞模様があるのが特徴だが、鑑定に自信がなければ、食べない方が無難だ。(ky)



JAPICホームページより  
<http://www.japic.or.jp/>

HOME

サービスの紹介

ガーデン

Topページ右下部の「アイコン」からも閲覧できます。